

令和6年8月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：令和6年8月29日（木） 午後2時00分～午後3時10分

開催場所：岡崎市役所福祉会館2階 201号室

出席委員：7名

杉野丞委員（会長）・荒井信貴委員（会長職務代理者）・奥田敏春委員・杉坂美典委員・鷹巣純委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員

欠席委員：2名

内田尚之委員・堀江登志実委員

説明のために出席した事務局職員：9名

二村雅志教育部長

社会教育課：田中典子課長・原林基昭副課長・遠藤研吾岡崎城跡係長・岡山幸男文化財係長・浦野加穂子主査・平山優主事・澤井奎志主事・水船早紀会計年度任用職員

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（龍城堀発掘調査）について
- (2) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（雨山川浚渫工事）について

2 その他

- (1) 次回の審議会開催について

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（龍城堀発掘調査）について

【事務局説明】

現状変更を必要とする理由については、令和5年4月9日に龍城堀南面石垣の一部で崩落が発生し、その後の現状確認の際、別地点で築石の落石、顕著な孕み出し、石垣背後の空洞化が確認された。当該石垣の健全化を図るため、構造確認と記録・保存のための発掘調査を行う。

施工対象は、龍城堀南面58㎡、固化している範囲より上の1.8m。石垣の積み直し方は、発掘調査で内部構造が分かった上で検討する。石垣は、幕末から近代に積み直されたもので、現状からみだりに形を変えるべきではないと考える。不要な掘削を避け、史跡への影響を最小限に留める。

【質疑応答】

委員：崩落部分は崩落前の写真があり、石はナンバリングして積み直しができるようにしていたのか。また、石の数は全て揃っていたのか。

事務局：はい。

委員：栗石の入っている量が、場所により差がある。トレンチが入っているのか、施工時期に違いがあるのか。

事務局：時期の違いは考えられる。円磨度が低く、岡崎城内で見る栗石と形態が違う箇所がある。管を入れるときに周りの石垣を外し、巻石といった形で入れた可能性が考えられる。石と土の割合が一对一で栗石らしくないため、今後トレンチを入れて調べ

ていく。

委員：石垣は全て写真が撮ってあるのか。

事務局：全て撮影し、石と写真をナンバリングして、元通りに積めるようにするのが目標値。
長い石垣だと遠目で写真を撮っているため、補完するためにも石垣測量を毎年進めている。

委員：石材カルテには、石の種類も書き込めるのか。

事務局：はい。石質や加工跡、刻印がないかも記録していく。

委員：排水管が入ったことと崩落は関係があるのか。

事務局：崩落原因はまだ確信はないが、一つ影響はしていると考えている。

委員：崩落するには理由があるので、周りをよく見ておいて欲しい。

諮問結果：可とする。

(2) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（雨山川浚渫工事）について

【事務局説明】

西三河建設事務所から雨山川浚渫工事实施に伴い、ゲンジボタルの指定範囲内にあたるため、現状変更を提出してもらった。工事を行う理由は、水の流れを阻害している堆積土砂を撤去することで河川の氾濫を防止し、近隣住民の生活の安全を確保するため。

工事方法は、重機で河川内の堆積土砂を撤去する。掘削高さが水位より低い場合は、掘削する際に水際の堆積土砂の一部を築堤として残し、濁水の流出を防止する。また、河川内重機作業マニュアルを作成し、重機から出るオイルや燃料の漏れがないか業者と確認しながら水質汚染を防いでいく。

施工にあたっては、ゲンジボタルの活動期（4月～8月）に留意するとともに、濁水の流出に対し十分な対策を講じるため、影響は少ないと考えられる。

【委員補足説明】

ゲンジボタルの幼虫は岩についている動物性タンパク質の生物（カワニナ）を好んで食べる。工事によって泥が流出することにより、植物が光合成できなくなり、植物性プランクトン、動物性プランクトン、カワニナに影響が出て、ゲンジボタルの生態を揺るがす。今回の工事は水質汚濁に配慮されたものなので、許可して良いと考える。また、綺麗な方が微生物を沢山食べられるようになり、ホタルの幼虫にとっては良い環境となる。

終齢幼虫は、5月に雨による川の増水が起これば、川を出て斜面の泥に潜って巣を作り、蛹になる。今回の工事場所は斜面がコンクリートで覆われているため、ホタルの蛹や成虫は住めず、生息していないため問題ないとする。

【質疑応答】

委員：天然記念物は地域指定という形での保存方法とゲンジボタルそのものを保存する方法がある。国のように範囲が指定されている場合は、工事などの手続きを配慮できるが、額田のようにゲンジボタルそのものが対象となった場合は、河川全域など範囲が広く、工事の許可を出すのが難しい。保存団体と協力して、その年の発生状況や生息場所などの現状調査が必要なのではないか。

委員：ホタルを守る会でも自分たちの範疇でやっているところはあるが、広大な額田の地域を調査するには莫大な予算がかかる。また、一斉に発生している中で数値を出すのは、現実的にも人間的にも厳しい。

委員：河川内の重機作業マニュアルは、一般河川で工事をするにあたってのものか、指

定地域に対するものか。

事務局：ゲンジボタルに配慮したものというよりは、工事業者側のマニュアル。ゲンジボタルの発生地域のマニュアルが見当たらなかったが、他地域や県の同じような浚渫工事の事例を見たところ、今回と同じような対策を取っていた。

委員：種として天然記念物に指定するのはかなり難しい。今後も続けて行くべきなのか。一度精査して、範囲を指定するべき。

委員：地域を絞る可能性はあってもいい。

委員：保存活用計画を作る過程で、精査し直すべき。

事務局：額田地区の河川区域全域の指定については、以前から課題だと考えていた。将来的に調査を行った上で、地域を絞っていく方向性は想定したが、調査は大規模になる。課題として捉え、必要な点を確認しながら進めていきたい。

諮問結果：工事に関しては可とする。今後の課題として、指定の範囲に関する検討を進める。

2 その他

- (1) 次回の審議会開催について
令和6年11月に開催予定。